

# 岡谷市市民新聞

発行所  
〒394-0028 岡谷市本町3  
岡谷市市民新聞社  
編集・発行人 薩摩 建  
電話 記事23・4449  
広告22・8000  
購読22・8001  
事業22・8002  
総務23・4441  
FAX 記事22・4444  
FAX 広告21・1515

インターネットページ  
www.shimin.co.jp  
E-mail(記事)  
mail@shimin.co.jp  
E-mail(広告)  
koukoku@shimin.co.jp  
©岡谷市市民新聞社 2012年  
定価1ヵ月1,690円  
1部売り60円(税込み)

市民新聞の購読申込みは本紙営業局 ☎22・8001へ  
本紙をお届けする販売店  
浜新聞店 ☎22・2393  
読売センター岡谷 ☎22・9680  
産経新聞岡谷 ☎22・3881  
中日新聞岡谷 ☎22・4129  
毎日新聞岡谷専売所 ☎78・7870  
唐沢新聞店 ☎23・0896  
□長地区  
渡邊新聞店 ☎27・8114  
信毎販売C下諏訪営業所 ☎27・7602  
毎日新聞専売所 ☎28・6014  
矢川新聞店 ☎27・3883  
中日新聞専売所 ☎28・3632  
コンビニにもご利用ください

## 大震災からの再生を「御柱の地」で――

### 「よみがえれふるさと諏訪音楽会」

7月15日に  
下諏訪で

民衆の中からわき起こった「うたごえ運動」。長年、その運動をリードしてきた関西合唱団常任指揮者の守屋博之さん(78)＝東大

る、日本のうたごえ合 4日、岡谷市内で記者  
合唱団を招いての「よみ 会見を開き、諏訪音楽  
がえれふるさと諏訪音 会に出演する合唱団員  
楽会」(同実行委員会 の募集を始めた。  
主催)は、7月15日 諏訪音楽会の副題は  
(日)に下諏訪総合文 く大震災からの再生を  
化センター大ホールで 御柱の地で歌おう。  
開く。実行委員会(毛 諏訪市大和出身の守屋  
利正道実行委員長)が さんや、うたごえ運動

うたごえ運動の守屋博之さん、  
日本のうたごえ合唱団招き

40周年の1 988年に  
誕生し、同 運動の頂点  
に立つ日本 のうたごえ  
合唱団(活 動拠点のな  
い自主参加 の全国的な  
組織)を「諏訪に招き  
たい」という思いには  
じまり、大震災や原発 同する地元有志らでこ



ポスターを手に合唱団への参加を呼び掛ける毛利実行委員長(左)、伊藤常雄事務局局長(中)、伊藤力司さん(右)

と1月、実行委員会  
を組織した。  
諏訪音楽会は午後2  
時開演。守屋さんが男  
子校だった母校の諏訪  
清陵高校、女子校だっ  
た諏訪二葉高校との合  
同でつくった混声合唱  
団で歌った経験を持つ  
1年後輩のジャーナリ  
スト(共同通信社社友  
伊藤力司さん(77)＝富  
士見町境＝と守屋さん  
が、大震災やうたごえ  
運動などをテーマに対

談のあと、地元木遣  
(きやり)保存会が木  
やりを披露。音楽会に  
あわせて結成するふる  
さと合唱団が「あさみ  
の歌」「琵琶湖周航の  
歌」などを歌い、やは  
り音楽会で組織する地  
底(ちぞこ)の歌合唱  
団が、日本の労働・う  
たごえ運動を代表する  
「地底の歌」を混声合  
唱で聴かせる。

#### うたごえ合唱団 総勢100人で来諏

総勢約1000人で来  
諏する日本のうたごえ  
合唱団は、守屋さんの  
指揮で「時代」「愛だ  
けを残せ」、被ばく2  
世で聴覚障害者の佐村  
河内守さんが作曲した  
「レクイエム・ヒロシ  
マ」などを歌う。この  
ほか茅野市を拠点に活  
動する混声合唱団・宙  
(そら)、ソプラノ歌手  
の太田真季さんが出  
演。実行委員会では音  
楽会で結成する合唱団  
に大勢の参加を募り、  
プログラムの最後では  
総勢約200人の合同  
合唱で、客席も巻き込  
みながら「あなたはど  
こに」「アメイジン

#### 出演の合唱 団員を募集

14日は守屋さ  
んが直接指導

ふるさと合唱団の練  
習はすでに始まってお  
り、4回目の14日(土)  
は午後7時半から岡谷  
市長地権現町の諏訪湖  
ハイツで開き、帰郷す  
る守屋さんから、初め  
て直々に指導を受ける  
という。事務局長の伊  
藤常雄さん(61)＝伊那  
市高遠町＝は「大勢の

人に参加してもらい、  
音楽会を成功させた  
いと呼び掛けている。  
諏訪音楽会の参加費  
は一般千円、中高生や  
障害のある人は500  
円。合唱団員の募集を  
含む問い合わせは、毛  
利実行委員長 ☎22・岡  
谷市今井(電)09  
0・4096・706  
5)、伊藤事務局長  
(電)090・493  
2・6471)へ。



# うたごえの復興の力に

## 下諏訪 7月に「諏訪音楽会」

大震災と原発事故を経験した日本に「うたごえ」を届ける「よみがえれふるさと諏訪音楽会」が7月15日午後2時から、下諏訪町の下諏訪総合文化センターで開かれる。諏訪市出身で合唱団の指揮者守屋博之さんと「日本のうたごえ合唱団」の公演や、音楽会に向けて県民有志が結成した「ふるさと合唱団」のステージなどが繰り広げられる。(唐沢宏)



永吉カヨさんのイラストを配したポスターを手に、来場を呼び掛ける実行委役員たち

諏訪地方の住民有志が1月に発足した実行委員会(毛利正道委員長)が初めて企画した「うたごえ運動の第一人者」で、関西合唱団や日本のうたごえ合唱団で指揮者を務める守屋さん(78)「東大阪市」を迎え、民衆運動としての「うたごえ」を通して震災復興と原発のあり方を考える。

当日は、諏訪清陵高校でも合唱に取り組んだ守屋さんとジャーナリスト伊藤力司さん(77)「富士見町」が、諏訪と合唱団、うたごえ運動をテーマに対談。木やりの後、ふるさと合唱団が「いとしき八ヶ岳によせて」「あざみの歌」「琵琶湖周航の歌」などを披露するほか、炭鉱労働者が歌った「地底の歌」で命の大切さを訴える。

続いて、茅野市を拠点に活動する合唱団宙、日本のうたごえ合唱団、ソプラノ歌手太田真季さんが登場。日本のうたごえ合唱団は、うたごえ運動40周年を契機に1988年に発足した合唱団で、初の諏訪公演となる。全国から団員

約100人が参集する予定という。最後は全員で、和合亮一さん作詞の「あなたはどこに」と、「アメイジング・グレイス」を歌い上げる。

ふるさと合唱団は現在、諏訪、上伊那地方の住民約50人で構成し、月1回のペースで岡谷市内で練習中。100人を目標に団員を募集している。

毛利委員長(62)は「日本人は縄文の時代から震災を生き抜き、御柱祭のように支え合ってきた歴史を作ってきた。会場をいっぱいにして歌いたい」と意気込んでいる。

当日の参加費は一般1000円、中高生・障害者500円。音楽会や入団に関する問い合わせは、事務局の伊藤常雄さん(電話090・493・2・6471)へ。

# 守屋さん迎え練習に熱

## 「ふるさと合唱団」が7月の音楽会に向け



「うたごえ運動」の最高峰、日本のうたごえ合唱団を招き、7月15日(日)に下諏訪総合文化センターで開く「よみがえれふるさと」諏訪音楽会へ大震災からの再生を御柱の地で歌おう。(同実行委員会主催)に向け、地元うたごえ愛好家をつくる「ふるさと合唱団」の練習が14日午後、岡谷市長地権現町の諏訪湖ハイツであった。同運動を長年リードしてきた諏訪市出身の関西合唱団常任指揮者・守屋博之さん(78)＝東大堺市＝が帰郷し、初めて集まった約40人を指導した。

ふるさと合唱団は同音楽会当日、守屋さんの指揮で「あざみの歌」「琵琶湖周航の歌」「いとしき八ヶ岳によせて」などを歌うほか、東日本大震災被災者の詩人・和亮一さんがツイッターに書き続けている詩に曲をつけた「あなたはどこに」と「アメイジング・グレイス」を日本のうたごえ合唱団との合同で披露する。練習はことし1月に始まり、4回目の14日は新たに13人が仲間入りした。



古里でのコンサートで初めて指揮するといふ守屋さんは、諏訪で育った60余年を振り

返り、「当時から日常生活の中に音楽があった。よそへ出て初めて気付いたが、これは諏訪の文化の高さを示しており、豊かな自然とともにそうした中で育ったことが、その後の自分に役立っている。多くの人の準備で、育ててくださった方たちの中でコンサートができることを、とてもうれしく思う」と音楽会への決意を静かに語った。

古里への思いを抱きながら指導する守屋さん

今回のコンサートは、うたごえ運動をけん引してきた守屋さんや日本のうたごえ合唱団を「諏訪に招きたい」という実行委員会関係者の思いに始まり、建立という形で再生を繰り返してきたおんばしらの地から、東日本大震災の復興を願う気持ちを込めた。取り上げた楽曲の「あなたはどこに」は「震災の苦しみの中から生まれてきた歌」と守屋さんは話し、震災を機にうたごえ運動を続けてきた人以外にも社会的な活動

が広がっていることを歓迎しながら、「ことで被災者を励みたい」と述べた。

諏訪音楽会の参加費は一般千円、中高障害のある人は500円。合唱団員の募金問い合わせは利実行委員長(電話0・4096・75)ほかへ。



諏訪地方の住民有志でつくる実行委員会（毛利正道委員長）が企画し、7月15日に下諏訪総合文化センターで開く「よみがえれふるさと諏訪音楽会～大震災からの再生を御柱の地で歌おう」に向けて14日、うたごえ運動の第一人者である守屋博之さん（78）＝東大阪市＝が、県民有志でつくる「ふるさと合唱団」を指導した。年齢を感じさせない守屋さんの情熱的な指導を受けて、団員は7月の本番に向けて気持ちを高めていた。（新保修一）

# 諏訪音楽会へ情熱

うたごえ運動第一人者 守屋博之さん

## 岡谷で合唱団を指導



ふるさと合唱団を指導する守屋博之さん

守屋さんは諏訪市出身。「日本のうたごえ合唱団」音楽監督、関西合唱団常任指揮者を務め、全国の合唱団の客演指揮、合唱指導などで活躍している。諏訪音楽

会では、日本のうたごえ合唱団初の諏訪公演が実現するほか、ふるさと合唱団を指揮することになっている。守屋さんが多忙なため、ふるさと合唱団の事前指導

は今回のみの予定。岡谷市の諏訪湖ハイツで行われた練習では「いとしき八ヶ岳」によせて「あざみの歌」「琵琶湖周航の歌」など当日のプログラムを一通りおさらいした。守屋さんは、フレーズごとに発声の仕方などを細かく指導。アドバイスを受けるたびに団員たちの歌声は、美しいハーモニーになって響いた。

諏訪音楽会に向けて、「震災の苦しみの中から生まれた歌を歌うことで、復興の力になることを願う今回の音楽はすばらしい」と守屋さん。「今振り返ってみて、諏訪は音楽文化の高いところだと改めて感じている。その諏訪で指揮ができることはうれしい」と、本番を楽しみにしていた。